

【Team YUK HIRATA-G 記念すべきデビュー戦をクラス 9 位で完走】

新体制での初陣、もてぎの 4 時間をノートラブルで走り抜く

■ Introduction

2026 年 3 月 21 日・22 日、モビリティリゾートもてぎにて「ENEOS スーパー耐久シリーズ 2026 Empowered by BRIDGESTONE 第 1 戦」が開催された。今季より新たに ST-Z クラスへ参戦する 77 号車「HIRATA-G YUK AMG GT4」(YAMATATSU/黒澤治樹/COLD MAX) にとって、これがチームとしての初実戦。詰めかけた観客の前で、漆黒の車体が新たな歴史の一步を刻んだ。

■ Qualifying

土曜午前に行われた公式予選。スーパー耐久では A ドライバーと B ドライバーが記録したベストタイムを合算したもので順位が決まる。A ドライバーの YAMATATSU が 1 分 59 秒 098 をマーク (クラス 6 番手) した。続く B ドライバーの黒澤治樹は路面改修後の好条件を活かし、1 分 57 秒 943 のタイムを記録 (クラス 7 番手)。合算タイム 3 分 57 秒 041 により、総合順位ではクラス 6 番手からのスタートが決定した。

■ The Race

日曜正午、4 時間にわたる決勝レースが幕を開けた。今回は 4 時間レースで途中で 3 度のドライバー交代を伴うピットストップを消化する義務がある。そのほかにも A ドライバーの最低乗車時間が 60 分と定められており、1 人のドライバーが運転できる最大時間もレース全体の 55% を超えてはいけないというスーパー耐久独自のルールがある。

スタート DR は、COLD MAX が担当し、序盤からライバルに食らいついていきたいところだったが、他車の多くは序盤のうちにペースを上げる作戦だったこともあり、77 号車は 10 番手に後退。それでもアクシデントなく着実に周回を重ねた。

22 周目に 1 回目のピットストップを実施し、黒澤に交代したが、この直後にコース上でトラブル車両が発生してセーフティカーが導入。ここでピットのタイミングを遅らせていたライバルたちが一斉に作業を済ませる展開となり、77 号車にとっては少し運が味方しない展開となった。

その後も後手を踏むシーンもあったが、初レースでしっかりと走り切ることを心がけ着実に周回を重ねた。全体の折り返しを過ぎたところで A ドライバーの YAMATATSU が乗車

し、32周を走破。義務となっている60分を走り切り、アンカーとして再び黒澤が乗り込んだ。

他クラスではトラブルでストップする車両もあったが、77号車はデビューレースでアクシデントやトラブル、ペナルティもなく4時間を走り切り、クラス9位で完走を果たした。

■ Team Voice : 黒澤 治樹

「初めてのクルマで初めての体制。ドライバーもスーパー耐久は初めてでしたが、そのなかでしっかり完走できたのは良かったです。まずはレースを走り切らないと今後への課題が見えないので、完走するというのは大切なことです。次に向けて一歩進むことができたレースだったかなと思います。次戦の鈴鹿では、今よりも良い順位でレースができるようにしたいです」



■ Next

次戦は、4月18日～19日に三重県・鈴鹿サーキットにて行われます。